

学校教育目標



夢 に向かっていく生徒
命 を大切に作る生徒
絆 を互いに深め合う生徒



須和田が丘

令和3年度
学校だより No. 23
令和3年 12月6日

市川市立第二中学校
校長 石田 清彦

ホームページ <http://www.dai2-tyu.ichikawa-school.ed.jp/>

これからの学校での学び（主体性を育む教育）

令和3年5月27日に実施されました全国学力学習状況調査の結果が公表され、市川市についても下表の通り結果が発表されました。

○教科に関する調査〔国語、数学〕の
平均正答率（%）の結果

	市川市	千葉県	全国
国語	65	65	64.6
数学	57	56	57.2

第二中学校は、国語、数学共に全国及び市川市の結果を上回っており、数学は5ポイント以上上回る結果となりました。（詳しく分析等は、質問紙調査の結果を含め、後日お知らせいたします。尚、学校ごとの正答率は公表しないこととなっています。）

一方、前期の学校評価では、「二中学生は塾に通う子が多く、定期テストの結果などはそれに下支えされている面は否めません。塾等に通う生徒の理解度に合わせるのではなく、分からない子を置いていかない授業をお願いします。」といった意見がありました。そこで、「学校での学び」についてお伝えいたします。

新型コロナウイルスの世界的なまん延により、私たちの生活は大きく変わり、これからの社会は「VUCAな時代（変わりやすく不確か、複雑で曖昧な時代）」と言われています。このため今年度から実施となった学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が重要であると言っています。

子供たちは、主体的に、対話的に、深く学んでいくことによって、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解したり、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになっていくということです。

「主体的」「主体性」については、経団連が2017～2018年に実施したアンケートでも、「学生に求める資質、能力、知識」の1位となっています。

	1位	2位	3位
学生に求める資質、能力、知識	主体性	実行力	課題設定・解決能力

「主体的・主体性」の捉え方は曖昧であることも多く、教員の指示に誤りなく従ったり、宿題を忘れずに提出したりすることも「主体的」であると考えられることが多くありました。一方、「生徒による自発的な行動であれば何でもよい」というものでもありません。

最近、主体性に代わって「エージェンシー」という言葉が使われることがあります。エージェンシーとは、「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」と定義され、他者との関係性の中で育まれていくとされています。先日お会いした大学の先生が、「一般入試で入ってきた学生よりも、AO入試で入ってきた学生の方が、入学後の学力が伸びる傾向にある」と言われていたのも、「主体性」「エージェンシー」と大きく関係しているように思いました。

こうした学びの質に着目して、「どのように学ぶのか」といった取組を活性化していくことが、今の学校には求められています。

学校での学びは、個々の教員の指導改善の工夫や教材研究の努力によって支えられており、「どのように学ぶか」を追究する工夫や努力は、既に教科や学年によっては、第二中学校でも始まっています。

これまでの知識伝達型に留まりがちな授業を改善し、子供たちが主体的に学ぶことや、学級やグループの中で協働的に学ぶことを通して、「新しい社会の在り方を自ら創造することができる資質・能力」を育むことが、オンライン等ではできない「これからの学校での学び」であると考えています。

「主体的・対話的で深い学び」については、次の3つの実現が重要であるとされています。

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげること。
- ・子供同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深めること。
- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすること。

先日まで教育実習で来られていた学生さんが、実習を振り返って次のように書いていました。「実習の中で、教材研究の大切さと同時に、生徒主体の授業づくりをすることの難しさを実感しました」

保護者の皆様におかれましても、学校での学びの改善の取組に、ご理解を賜りますようお願いいたします。